

6月24日 海が教室に 岩美高校ならではのマリンスポーツ授業

岩美町の豊かな自然を生かした岩美高校の特色ある授業「海辺の学習」。
対象は、2・3年生のスポーツ類型の生徒たちです。シーカヤックとシュノーケリングという2種類のマリンスポーツに挑み、実践的な学習をしています。授業は、鳥取自然体験塾の長谷川さんとスタッフの方々の丁寧な指導のもと、安全かつ充実した内容で行われました。今年は、1日の授業内で両種目を学ぶ内容の濃いプログラムが実施されました。



シーカヤックでは、基本的なパドルの使い方やセルフレスキューの方法を学習。雄大な海原を漕ぎ進みながら、洞窟のような狭い入口に入るなど、変化に富んだコースで実習が行われました。



シュノーケリングでは、水中での呼吸法やトラブルへの対処法を身につけた上で、岩場に生息する魚を観察しながら泳ぎました。生徒たちは自然とのふれあいを通して、岩美の海の魅力を肌で感じる貴重な時間を過ごしました。

本授業を通じて、生徒たちは自然環境への理解と感謝の心を育み、地域資源を活かした学びの可能性を実感しています。海を学びの場とするこの取り組みは、岩美高校ならではの教育として注目されています。



鳥取県立
岩美高等学校

瓦
版

TSUREDURE

岩美高校の日常

～令和7年6月・7月～

第
13
号

岩美高校
ウェブサイト

学校ウェブサイトアクセス
すると更に詳しい情報をご覧
いただけます。



20年ぶりの準々決勝

7月24日

試合の流れ

試合は序盤から米子西が主導権を握り、岩美高校にとっては苦しい展開となった。
・初回：米子西が鮮やかな先制パンチ。岩美高は立ち上がりから3点を失い、苦しいスタート。
・二回：米子西の長短打が冴えさらに4点を追加。岩美は左腕・鈴木選手のセンター返して反撃を試みるも、攻略には至らず。
・三回：米子西が2点本塁打を放ち、点差をさらに広げる。
・五回：追加の1点を許し、規定によりコールドゲームが成立。試合はここで終了。

岩美高校の奮闘

・投手陣は米子西打線に苦しみながらも、粘り強く投球を続けました。
・二回には鈴木選手、五回には田中悠選手が安打で出塁。先頭打者の出塁は3度あったが、打線のつながりを欠き、得点には結びつかなかった。

今後への期待

今回の敗戦は悔しい結果となったが、岩美高校の選手たちは随所に光るプレーを見せた。主将 田中、副主将 沖野を中心として粘り強い戦いを見せ、後輩たちに想いが繋がると確信しました。次なる舞台での巻き返しに期待が高まります。岩美高校の挑戦は、終わらない。



ジャマイカ訪問団を迎える日にむけて一準備奮闘中！



関西・大阪万博に出演するため来日するジャマイカ青少年訪問団を、8月7日に本校に迎えるにあたり、様々な準備をおこなっています。

7月より、本校図書館には、「ジャマイカってどんな国？」をテーマに、パネルや書籍、グッズの展示が施され、図書室の一角がカリビアンな雰囲気に。陽気で非日常的な雰囲気が気持ちを盛り上げてくれます。



7月14日 ジャマイカ料理の動画を見ながらランチタイム

動画は、7月に鳥取市内で行われた「木村太郎シェフ」による、ジャマイカ料理教室の動画を見ながら、ジャマイカの食について学びました。木村シェフは、駐日ジャマイカ大使館シェフとして各国大使や政財界の方々との会食での調理を担当されています。

この日は、図書室での昼食が許可され、生徒たちは映像を見ながら弁当を食べ、異なる食文化を持つジャマイカにますます興味を持った様子でした。

7月18日

ジャマイカ出身のALT とジャマイカ交流事前学習会



午後は、図書室でプレゼンテーション指導

午後からは、学校の図書室で、訪問団来校当日にプレゼンテーションを担当する生徒が集まり、現在準備しているプレゼンテーションに磨きをかけました。Dwayne先生の具体的なアドバイスで、生徒のプレゼンはより一層わかりやすいものとなったようです。



午前10時30分より、生徒は岩美町中央公民館のいわみんホールに移動し、ジャマイカ出身のALT Dwayne Senior先生を迎え、ジャマイカの生活や文化などについて理解を深める学習会を行いました。Dwayne先生は、ジャマイカのライフスタイルや文化、スポーツなどについて紹介をしてくださいました。生徒たちは、すべて英語で話される内容に耳を傾けていました。

疑応答では、生徒がたくさん質問し、それに先生がユーモアを交えて答えるなど、生徒とDwayne先生の距離もだんだんと近くなっていきました。



本日のしめくくりには、Dwayne先生から心強いエールをいただきました。

「プレゼンに一番大切なことは、engageすること！ジャマイカの人たちは、岩美町のことをほとんど知りません。だから、きっとたくさん質問してくれると思います。いろんな質問に答えられるように準備しておいてください。発音は、今のままで十分通じると思うので、小さな間違いを気にしないで大丈夫！『Sorry!』と言って続ければいいんです。どうか、楽しんでプレゼンしてください。」

生徒たちは本日の交流と、Dwayne先生の言葉に大きな勇気をもらったようです。



7月8日 空き缶でつくるカラフルな鳥おどし



3年生スポーツVの生徒たちが、身近な廃材をクリエイティブに変身させました。材料は、空き缶。ただのゴミではありません。アイデアと工夫で、風を受けて回る「鳥おどし」へと生まれ変わります。

アルミ缶にカッターで切れ目を入れ、羽を広げる。その後、上下をほんの少し潰して丸みを出し、風をとらえやすいフォルムに調整。羽の角度にもこだわり、わずかな風でも力強く回転するよう、試行錯誤を重ねました。

こうして完成したのは、廃材とは思えないほどカラフルで涼やかな鳥おどし。回るたびにキラリと光を放ち、自然の風と遊ぶエコアートとなりました。廃材を活用することで、地球にも優しい。そんな学びの時間となりました。



6月16日 農業と環境

高校生と小学生が「梨の大袋かけ」体験

先日行った、梨の「小袋かけ」に続き、今回のミッションは「大袋かけ」。虫や病気、汚れから梨の実を守り、美しくおいしい果実へと育てるための大切な工程です。

農業と環境の授業を通したスクラム教育の一環として、3年生の17名が再び小学校を訪問。小学3年生と力を合わせ、梨の一つひとつに愛情をこめて袋をかけました。



袋には、小学生たちの「おいしくなあれ！」というメッセージやかわいらしいイラストも。梨の実に願いを託し、一つずつ丁寧に包みました。

次の協同作業は、いよいよ収穫！大きく、甘い梨の実になるよう楽しみに待っています。



7月25日 岩美高校 OPEN CAMPUS 体験入学 開催！

本日、岩美高校にて「OPEN CAMPUS体験入学」を開催しました。
今年も多くの中学生と保護者の皆さまにご参加いただき、会場は笑顔と熱気に包まれました！

午前授業体験で岩美の学びを体感



暑さ対策のため、今年の全体会は情報室と福祉実習室に分かれて実施。野澤校長の温かな挨拶に続き、岡森教頭・森教頭が学校の魅力を丁寧に紹介しました。
その後は、8教科による授業体験！生徒たちはそれぞれの教室で、真剣に・楽しく・生き生きと学びました。



午後はドキドキの部活動体験！

しっかり休憩と水分補給をした後は、いよいよ部活動体験。
顧問の先生による丁寧な解説と、先輩たちとの実践練習で、中学生たちは少し緊張しながらも活動を見学したり、実際にチャレンジしたりしました！



7月13日 岩美高校、地域みらい留学フェスで全国へPR！

県外から学生を迎えるためのイベント「地域みらい留学フェス」に今年も参加しました！東京会場には2日間で、765組が来場し、岩美高校ブースには25組が訪問。さらに大阪会場では549組が来場し、そのうち38組が岩美高校のブースを訪れ話を熱心に聞いてくださいました。

岩美高校の最大の魅力は、海・山・温泉に囲まれた自然豊かな学びの場。その環境を活かした独自のカリキュラムや、地域の方々と連携した取り組みは、訪れた皆さんに大きな関心を持っていただきました。



地域コラボ

cafe

いわたん地域探究学習

6月14日「明石家×岩美高校」 1日限定カフェOPEN！



総合的な探究の時間、地域探究活動の一環で、3年生の岩井地区の活性化に取り組む班の生徒が、この地区の魅力を再発見・発信する取り組みを行っています。今回、その活動として、岩井温泉「明石家」様のロビーの一角をお借りして、一日限定カフェをオープンしました。

岩井温泉を訪れるお客様に向けて、手作りのチョコスコーンと笑顔でおもてなしをしながら、「岩井温泉を選んだ理由」や「観光の目的」などをお聞きすることで、今後の学習や取組に役立てる貴重なデータの収集も行いました。

当日は、午前10時に集合してスコーンの仕込みからスタート。これまで授業で何度も打ち合わせを重ねてきたこだわりのレシピで、心を込めて準備を進めました。



カフェの告知は、1か月前から町内へのチラシ掲示や、地域おこし協力隊のSNS発信などを通してPRを実施。地元の方々の応援もあり、イベントは開店前から大盛況となりました。

チラシ、ポスターも
生徒の手作り



「授業でこんな取り組みをするのは面白い。」
「一日だけでなく、もっと定期的に開催してほしい」
「スコーン、とっても美味しかった。甘さ控えめがちょうどいい」
そんなあたたかい声を、たくさんの方からいただきました。
生徒たちは、はじめこそ緊張の面持ちでしたが、時間が経つにつれ、笑顔で対応できるようになりました。おもてなしの大切さや、人と接する喜びを肌で感じられる貴重な社会体験にもなりました。

今回のイベント開催にあたり、多大なるご支援とご協力をいただきました「岩井温泉 明石家」山本社長様、そしてご来場くださったすべてのお客様に、心より感謝申し上げます。
この日の経験をもとに、効果的なPR方法の検討やアンケート結果の分析を進め、7月の最終発表会に向けて成果としてまとめていく予定です。



●株式会社タシマボーリング

養殖場フィールドワーク（6月12日）

岩美町大谷にある、地下海水井戸陸上養殖場を見学しました。大人気のブランド鯖「お嬢サバ」と「さばみちゃん」が養殖されるタンクで、養殖事業のお話を聞き、餌やりも体験しました。



さばみちゃんに触れて食す！（6月19日）

岩美の養殖場で育った「さばみちゃん」を使って、調理ワークショップを行いました。生徒は、サバの3枚おろしに挑戦。その後、養殖サバだから食べられる「サバのお刺身」や「焼き鯖」に調理して味わいました。生徒は、命をいただくという実感とともに、食の大切さと豊かさを体感しました。



●岩井温泉明石家

温泉旅館を見学（6月12日・19日）

岩井温泉の「明石家」の施設を見学しました。岩美町屈指の観光地の一つでもある岩井温泉、そこで長年つづく温泉旅館の歴史とおもてなしの心をご案内いただきました。



「本物に触れ、本物から学ぶ」 - 地域とともに育む、探究の一步 -

6月12日と19日の2回にわたり、1・2年生を対象とした総合的な探究の時間で、校外フィールドワークと校内ワークショップを実施しました。岩美町で活躍する企業や団体、個人の方々のご協力を得て、生徒たちは実際の仕事現場を訪れたり、ワークショップを体験したりしました。

●岩美こども食堂

施設見学と調理お仕事体験

（6月12日・19日）



浦富にある「岩美こども食堂」の施設を見学しました。食堂で出す「ちまき」作りのお手伝いや、施設に飾るポスターの作成など、現地でお仕事や活動について体験しました。

●いわみ郷土料理愛好会

じんたん寿司作り（6月12日）



捕獲されても売り物にならない小さなハタハタを使った岩美町の郷土料理「じんたん寿司」。いわみ郷土料理愛好会さんに、魚のおろし方や、おし寿司のコツをご指導いただき調理しました。「魚嫌いな子どもでも食べられるおすし」をコンセプトに開発にされた万人に愛される味付けのお寿司を美味しく調理し食しました。

●ナチュラルプランツ 葉波

しのぶ玉づくり（6月19日）



ミズコケで作ったシダ玉の「しのぶ玉」。清涼感たっぷりで、人気のインテリアを作りました。お家にいても自然を感じられ、植物を育てる楽しさを学びました。



●FDK 株式会社

手作り電池（6月12日）

電池の仕組みを学びながら手作り乾電池キットで「世界に一つだけのオリジナル乾電池」を作りました。FDKの職員の皆さんのアドバイスを受けながら自分で作った乾電池を使って豆電球に明かりをつけました。乾電池づくりをとおして科学のおもしろさを知ることができました。



鳥取工場を見学（6月19日）

国内外に製造拠点を展開される電池メーカーFDKの鳥取工場を訪問しました。最先端の製造現場を間近で見学し、地域に根ざしたグローバル企業の姿を学びました。



各班、午前9時5分の開始から途中休憩をはさみ何度もプレゼンを行い、1・2年生は興味のあるテーマを選んで自由に移動。先輩たちの研究を間近で聞き、そのユニークさや熱意に引き込まれている様子。

さらに、ラリー形式の質問ワークシートを導入。質問することにシールがもらえ、たくさん集めた生徒にはサプライズ特典も！双方向のやりとりで、会場は一層盛り上がりました。外部からのゲストの質問にも、しっかりと誠実に答える姿も印象的でした。



●田後地区 TAJIRI 倶楽部
「田後を活性化させるために」



●浦富地区 レジンアート
「海岸の美しさを表現しよう」



●浦富地区 beach art
「ビーチアートで浦富の魅力を」



●浦富地区 琥珀糖
「琥珀糖で岩美を表現しよう！」



●東浜地区 東浜廃材活用隊
「魅せる！海洋ゴミ」



●東浜地区 東浜応援隊
「ひがPR大作戦」



●東浜地区 Salt46
「いわみのめぐみ うまみ塩」



●東浜地区 Blues
「東浜の美しい海はバズれるのか？」



●東浜地区 まちおこしロケット団
「地域魅力再発見大作戦」



●岩井地区 温泉カフェ
「温泉カフェ営業中」



●岩井地区 岩美高校広報課
「岩美を語り継ぐ」



●岩井地区 温泉探究シュノーケル
「岩井のすくすく」



●岩井地区 岩井温泉を盛り上げ隊
「岩井の魅力発信」



●岩井地区 ネギシックス
「ネギでネギらう」



●岩井地区 客室シンフォニー
「善意の力、ナメたらいいんでえ」

中間発表の課題だった「声の聞こえにくさ」も徹底改善。地域から訪れた方々も「前回よりぐっと聞きやすく、内容も面白い」と高評価。そして何より印象的だったのは、生徒たちの成長です。堂々とした態度、わかりやすい説明、聞き手を意識したプレゼン。中間発表からの「進化」を明らかに感じました。

地域から寄せられた「よかったよ！」の声、そして生徒たちの自信に満ちた笑顔。探究の1年3か月が確かな成果となったようです。

7月25日

探究の集大成 3年生 いわたん3 最終発表会

2年生1学期から約1年3か月間、地域サポーターと一緒に取り組んできた探究学習の発表会。3月の中間発表では体育館に全5班がブースを並べましたが、今回はスケールも演出もさらに進化。1・2年の全クラスに加え、選択教室や福祉実習室をフル活用し、校内全体を舞台に多彩なプレゼンが繰り広げられました。

7月10日 岩美高校" いわたん2 " 始動

一地域とつながり課題を見つけるー

地域とともに学び、課題を見つけるー岩美高校の探究学習「いわたん」。この取り組みは、岩美町にお住まいや町内でお仕事をされている地域の方々を"地域サポーター"としてお迎えし、授業に参加いただきながら指導や助言をいただき、生徒主体で課題を見つけ研究する学習です。

パネリストとして登壇いただいた6名の地域サポーター



2年生からはいよいよ本格的に、地域サポーターの専門性に基づいたジャンルごとに分かれ、探究するテーマを自ら設定するフェーズへ。そのスタートとなる今回、6名の地域サポーターをお招きし、パネルディスカッションを開催しました。

それぞれの専門分野と地域への想いを語っていただいた後、矢澤教諭による質問に答える形でディスカッションが進行。地域のリアルな課題や可能性を知る貴重な時間となりました。

本日の話を受けて、生徒たちは自らの興味や関心をもとに探究したいテーマを選び、次のステップへ進みます。地域と共に創り出す学び、その先にどんな課題見えてくるのか。今後の「いわたん」から目が離せません。



7月22日 一学期終業式：成長と感動があふれた105 日間



本日、第一学期の終業式が行われました。野澤校長が、1学期開始から本日までの105日間を振り返り、次のように式辞を述べました。アニメ「Free!」のイベントやコースタル・ビーチローイング大会では、多くの生徒がボランティアとして参加。その姿に対し、地元の方々から心温まる感謝の言葉が寄せられました。

3年生の探究学習では、自主企画のイベントを成功させ、最終発表ではその成果を堂々と発表。地域探究に向き合う姿勢が光りました。

2・3年生には始業式で「自分の殻を破る勇気」「他人の立場になって行動する思いやり」、1年生には入学式で「果敢な挑戦」が期待されていました。そして、多くの生徒たちがこの言葉を胸に、部活動や学習に真摯に取り組みました。

・ウエイトリフティング部は5名が全国大会インターハイへ出場
・硬式野球部は酷暑の中、堂々の準々決勝進出——20年ぶりの快挙

・吹奏楽部は応援演奏に加え、8月大阪万博・9月ジャマイカキャンプセレモニーでの演奏にも参加予定

それぞれの舞台で、活躍しています。そして3年生にとって、この夏は未来への準備期間。9月には就職試験や推薦入試などの準備が本格的にスタート。一日一日を大切に、早めの準備を心がけてください。

夏休みはしっかり休み、しっかり楽しみましょう。ただし、羽目を外しすぎず、人への思いやりを忘れずに。8月22日の始業式で、みなさんの元気な姿に再び会えるのを楽しみにしています。

7月28日 熱い夏、熱い学び！夏のHOPE が生徒の夢を後押し

町営塾「夏のHOPE」が今年も7月23日(水)、24日(木)、28日(月)の3日間にわたり開講され、進路実現に向けた意欲あふれる生徒たちが集いました。

初日の開講式では、岩美町教育委員会の大西教育長より「令和2年の開講以来、多くの先輩がこのHOPEを活用し、進路を切り開いてきました。"やる気があればできる"のではなく、"やるからやる気が出てくる"。そして、続けることで力となる。と、脳の研修者がいっていたように、このHOPEを起点に、みなさんの学びのステージの良いスタートになりますように。」と、生徒たちを力強く励ましました。

この講座では、岩美町の全面的な支援のもと、「学力向上」と「自主的かつ計画的な学習力の育成」を目標に掲げ、期間中は、現役鳥取大学生が教室をまわり、丁寧にわかりやすく質問対応や学習サポートを行いました。午前中は自学自習型セミナーの時間を設け、各日異なる大学生が講師として登場。彼ら自身の受験体験や大学生活のリアルな話を交えながら、生徒たちにとって貴重な"今"の学びと"これから"のヒントが詰まった時間となりました。



この3日間は、日常の過ごし方、学びへの姿勢を見つめ直す大きなきっかけとなりました。小さな一歩が、やがて大きな未来へとつながる町営塾HOPEは、その歩みを力強く支えています。

7月8日

地震と津波を想定した避難訓練を実施

地震と津波を想定した避難訓練を行いました。

緊急放送の合図とともに、生徒たちは迅速かつ冷静に体育館へ移動。点呼完了までにかかった時間は、ちょうど3分でした。

今回の避難訓練について、野澤校長から次のようなお話がありました。「最近、トカラ列島をはじめ世界各地で地震が頻発しています。日本も例外ではありません。いつ大地震が起きてもおかしくない今、冷静な判断と行動が命を守ります。今日の訓練を忘れず、常に備えてください。」

さらに、「地震」と「マグニチュード」の違いについての解説もあり、生徒たちは地震の情報の見方について理解を深めました。



7月9日

ウエイトリフティング部 岩美町長を表敬訪問！ 日ごろの感謝と闘志宣言



今年の舞台は、地元・鳥取。生徒たちは口をそろえてこう誓いました。「地元の声援を力に変え、最高の結果を残したい！」期待を背負い、全国の舞台でさらなる高みを目指します。

インターハイへの切符を勝ち取った岩美高校ウエイトリフティング部の5人が、岩美町役場に表敬訪問をし、長戸町長をはじめ、橋本議長、大西教育長を前に試合への決意を語りました。

長戸町長よりウエイトリフティング部に入った理由や試合に向けての意気込みを質問され、それぞれの生徒が、入部のきっかけ、重ねてきた努力、挫折と克服。そして、その先に見えた"インターハイ"という大舞台について話してくれました。彼らの言葉の一つひとつに、積み重ねた時間の重みと、強い覚悟がにじんでいました。



7月4日 挑戦の夏、誓いの舞台へ！

硬式野球部&ウエイトリフティング部 壮行会

県大会出場の硬式野球部と、インターハイ出場のウエイトリフティング部の壮行会を行いました。硬式野球部の県大会は、7月13日(日)県大会へ、ウエイトリフティング部は、8月7日～11日に行われるインターハイに挑みます

壮行会では、はじめに生徒会長 田中さんと森教頭から、熱い激励の言葉が贈られました。森教頭は、普段の活動の様子に触れながら、「強いチームは会話が多い」という統計データを紹介し、日々コミュニケーションをしっかりと取り練習している選手たちのチーム力に大きな期待を寄せました。

続いて、選手たちから力強い決意表明。

硬式野球部 主将 田中さんは、「日ごろの練習の成果を、チーム一丸で発揮します」と闘志を込めた言葉を。

ウエイトリフティング部 部長 安次富さんは、「一人ひとりが全力を出し切り、必ず良い結果を持ち帰ります！」と堂々と誓いました。

この夏、岩美高校の代表として戦う彼らの挑戦に、熱い声援を送りましょう！

頑張れ、硬式野球部！頑張れ、ウエイトリフティング部！



硬式野球部



ウエイトリフティング部

7月22日 整った心とからだで夏を迎えよう！いきいきキャンペーン



6月20日からスタートした「心とからだいきいきキャンペーン啓発活動」。新学期のリズムが整い、夏の気配が近づくこの時期にこそ、規則正しい生活習慣を意識し、心も体も健やかに整えることが、このキャンペーンの大きな目的です。

期間中は、生徒保健委員が中心となり、校内に啓発のぼりやポスターを展示、生活習慣をテーマにした校内放送、さらに図書室では「静かな読書タイム」の推進など、毎日を「イキイキ」と過ごすための工夫を発信してきました。

そして本日の終業式の後、3年生保健委員が「夏休み前の生活習慣と熱中症予防」について力強く呼びかけました。この夏、自分を守るのは自分自身。しっかり整えて、思い切り楽しむ夏休みへ。